

I 多様な担い手の確保育成

6次産業化を目指して起業農業者をサポート

東予地方局産業振興課地域農業室

地域農業室では、起業活動によって経営の安定・拡大に取り組む農業者を対象に、補助事業の導入支援、研修会の開催や情報提供等を通じ、6次産業化を目指した加工商品の製造・開発、販路拡大等を積極的に支援しています。

地域活性化の原動力となるような、新たな経営モデルが次々と誕生しています。

6次産業化に向け、事業活用支援

農産物加工品の製造・販売に取り組む西条市周桑地区の農業法人（有限会社雅園）に対し、6次産業化推進整備事業の計画策定や申請を支援しました。

事業採択を受け直営販売所内に調理設備を増設し、県育成品種「媛かぐや（里芋）」を利用したコロッケの対面販売や、イチジク等のソフトクリームの販売にも取り組んでおり、新たな顧客の開拓も進んでいます。



事業で増設したキッチンと加工商品



イベントでも人気のキッチンカー

キッチンカーで消費者との交流

丹原地区で観光農園に取り組む農家集団（株式会社 PENTA FARM）に対し、顧客管理の一元化と経営の多角化に向けた法人設立の取組みを支援しました。

イチゴやブドウ等観光農園のPRと農産物の有効利用を進めるため、国の補助事業でキッチンカーを導入し、各種イベントや直売所、量販店でスムージー等のスイーツを販売するなど、消費者との交流をテーマとした新たな販売スタイルが注目されています。

生産物を活かした商品開発の支援

起業家の経営能力向上とスキルアップを図るため、女性グループ等（10グループ27人）を対象に、経営発展や新たな戦略を講じていくための研修会を開催しています。

また、あぐりすとクラブへの加入促進、専門家のアドバイスによる新商品開発や商品力アップ、販路拡大に向けたイベントや商談会の開催情報を提供するなど、農家の6次産業化をサポートしています。



専門家を招いての新商品開発研修

食と農を支える農村女性の育成

今治支局地域農業室

今治上島地域では、多種多様な農林水産物が生産され、女性による農産物加工や起業活動が盛んに行われています。今後、個々の農業経営の中での女性の役割は益々重要となるため、研修会や組織活動を通じて女性農業者のスキルアップを図っています。

また、地域の食と農を守り食文化を普及するため、各地区の女性グループが地元につながる郷土料理や調理方法等の知識や技術を、子供や消費者に伝える活動を支援しています。

女性農業者のスキルアップ

女性農業者や組織（17グループ・120人）に対し、栽培技術・農業簿記・農産物加工などの研修を実施し、農村女性のスキルアップを図りました。

また、起業活動の先進地を訪問し、交流することにより、自らの経営活動を見直すとともに、組織の活性化を図りました。



パソコン農業簿記講座



地域特産物を利用した菓子作り実習

地域特産物利用の加工品開発

地域特産の甘長とうがらし等を有効活用するため、新たな加工品開発に取り組んでいます。

また、各地区の女性グループ員が地元の食材を使った料理を考え、地域のイベントでレシピの発表や試食を行いました。

郷土料理や技の伝承

児童・生徒や一般消費者を対象に、管内4か所で食農講座（延べ149人受講）を開催しました。

生活研究グループ員が、おもぶり・せんざんき・みかんゼリー等の郷土料理の作り方を講習し、知識と技術の伝承や食と農の大切さを伝える活動を行いました。



小学生への郷土料理の伝承

高齢農業者の力を生かした地域活性化をめざして

中予地方局産業振興課地域農業室

久万高原農業指導班では、平成23年度から2年間、中山間高齢農業者地域活性化モデル事業（中予地方局予算）に取り組んできました。

これは、県下で高齢化率の最も高い久万高原町をモデルとして、農産物や加工品等の販路拡大のしくみづくりや、消費者交流の促進を図り、中山間地域の活性化につなげることを目的に実施したものです。

集荷システム開発に向け運行調査

栽培技術や農地はあるのに、直売所等へ出荷する交通手段がない高齢農業者の農産物等を流通ルートに乗せる仕組みづくりに向け、運行調査を実施しました。

24年度は50件の出荷者が参加し、売上額は約530万円となりました。「集荷車の運行がなかったら、農産物等の販売を思いつくことはなかった」「少しずつでも収入になって楽しみだった」との感想をいただきました。



集荷場所へ荷物を運ぶ高齢農業者



スキルアップ講座の実施

高齢農業者のスキルアップ支援

高齢農業者の栽培技術や加工品開発、出荷技術のスキルアップを狙い、各種講座を開催しました。（9回、16講座、延べ276人）

特に、直売所等へのお荷物が初めての高齢農業者にとっては、包装資材の選び方や荷造りの方法を研修することにより、売上げが格段に伸びる効果がありました。

体験交流モニターツアーの実施

町内の各種体験を組み込んだモニターツアーを2回実施しました。

ツアー参加者40人に対するアンケート結果によると、一番良かった体験は「石窯ピザ焼き体験」という結果になりました。

この成果を生かし、町内に8か所ある石窯体験施設を活用しながら、人の交流を促進させる取組みを支援していきます。



石窯体験を楽しむモニター

就農相談から経営改善まで新規就農者を一元的にサポート

鬼北農業指導班

鬼北地域は基幹的農業従事者のうち65歳以上が74%と高齢化しており、新規就農者の確保・育成が急務となっています。そのため、町、JA、県等が一体となった鬼北地域農業支援センターを平成23年に設立し、これを核として関係機関が情報を共有しています。就農希望者の就農計画策定、就農準備研修、新規就農者への経営改善支援等を、各種制度や事業も活用して一元的に実施し、新規就農者の確保・育成に努めています。

支援方法の検討

就農希望者の情報は、鬼北地域農業支援センターに集まってきます。その情報をもとに、同センターを事務局とした担い手育成総合支援協議会で、IターンやUターン、新規学卒など就農希望者個々のレベルに応じた具体的な支援方法を検討し、就農へと導く活動を行っています。



関係機関による支援検討会



研修中の就農希望者

就農希望者への研修と支援事業の実施

松野町には株式会社松野町農林公社、鬼北町には社団法人鬼北町農業公社の研修施設があり、ここで、えひめ農林漁業担い手育成公社等の事業を活用しながら、就農希望者への研修を実施しています。なお、昨年は2人が研修を行いました。

さらに研修中に就農計画を検討し、施設や機械の導入が必要な場合は、国、県、町の各種支援事業の活用も支援しています。

人・農地プランの策定支援

鬼北地域農業支援センターは、人・農地プランの事務局としての役割も担っています。集落座談会の開催、町での検討会を経て、松野町では2地区、鬼北町では全6地区で人・農地プランの策定を完了しました。これにより、全体の担い手数延べ90人（うち新規就農者7人）を地区の担い手と位置づけ、より手厚い支援を実施できるようになりました。



人・農地プランの検討会

青年農業者の確保と農業経営者へのステップアップ

八幡浜支局地域農業室

地域農業室では、地元の高校や農業大学校等と連携した、就農候補者の掘り起こしから就農相談、技術・経営研修、プロジェクト活動などきめ細やかな支援活動を通し、青年農業者の確保と農業経営者へのステップアップを図っています。

意欲ある新規就農者の確保

青年農業者と高校生との交流会を開催し、農業への理解を深めています。管内4高等学校や農業大学校と連携して就農に関する情報等を提供し、就農者の確保に取り組みました。

新規就農者は、40歳未満の学卒、Uターン等あわせて10人、40歳以上の定年退職者等を中心に6人を確保しました。



青年農業者と川之石高校生との交流会



新規就農者への技術経営研修

就農定着に向けた技術・経営の支援

就農して間もない青年農業者を対象にかんきつ経営の技術と経営の基礎から実践まで幅広く習得できる研修会(シトラス講座)を年4回開催し、延べ18人が受講しました。

その結果、平成21年度に就農した9人の3年後の定着率は100%で、就農定着につながっています。

農業経営者へのステップアップ

技術・経営研修会、リーダー研修会、女子青年との交流会、出前授業など自主的な活動の企画立案や実施などの支援を行いました。

特に、首都圏や松山市の小学生を対象にした「西宇和かんきつ産地出前授業」は、昨年延べ18校約1,300人の参加があり、子供たちのかんきつへの興味を引き出し消費拡大につなげました。

また、このような活動を通じて農業経営者としての自覚が芽ばえています。



小学校への出前授業